カニクイザルを用いたSSPEモデル動物の開発

研究分担者:国立感染症研究所　網　康至

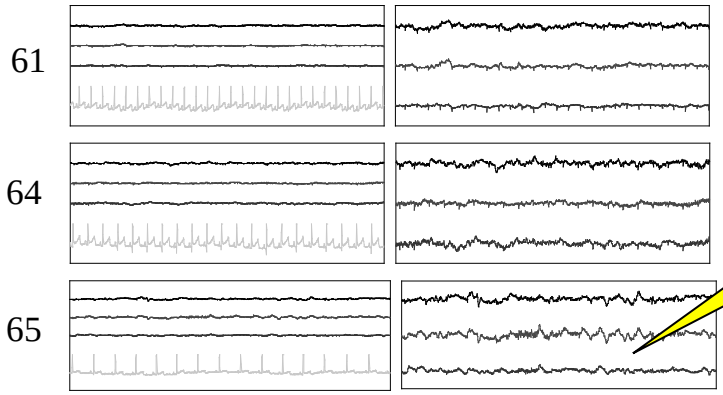

図1

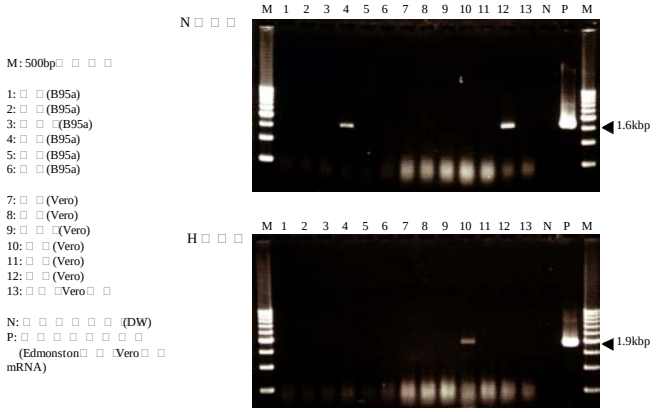

図2

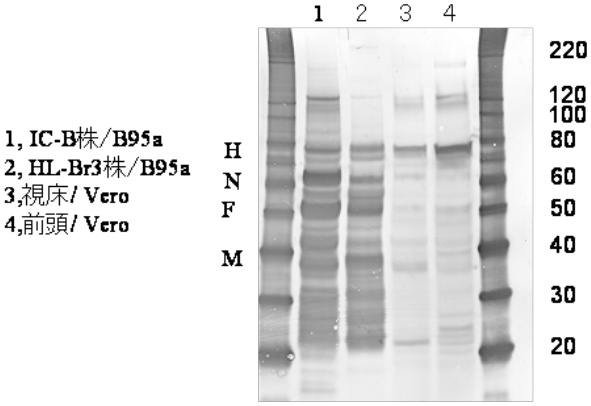

図3

解　説

1. 感染自己PBMCを視床に接種することにより、中枢神経内に麻疹ウイルスを持続感染していると考えられるカニクイザルを作出した。
2. この個体では、脳波において周期的な徐波が検出され、SSPE臨床例と相似する。（図１）
3. この個体を病理解剖し、中枢神経の各部位からVero細胞を用いてウイルス分離を試みた結果、CPEを示さない麻疹ウイルスが分離された。（図２）
4. 野外株麻疹ウイルスとは感染細胞内でのウイルス蛋白産生が異なる（図３）
5. この結果は、カニクイザルを用いてSSPE動物モデルが作出可能であることを意味する。